

# 魅力あふれる 私立小学校の 世界

東京私立初等学校協会 会長

## 矢崎 昭盛

**私立小学校の数は全国で227校と、全体に占める割合は1%に過ぎませんが、その先駆的な教育の成果により圧倒的な存在感を示しています。その尽きせぬ魅力について、国本小学校校長で、東京私立初等学校協会会長の矢崎昭盛先生にお伺いしました。**

——小学校は全国におよそ2万1千校ありますが、私立小学校はそのうちの227校に過ぎません。けれども、その1%の私立小学校が英語教育や道徳教育、安全対策など、さまざまな面で初等教育を先導しています。

**矢崎** 少子化により、公立の小学校は最近では毎年250校近く閉鎖していますが、私学は逆に増えています。それだけの期待が私学にはあるのだろうと思います。

私学の魅力は「建学の精神」にあり、それを見て保護者の方が小学校を選ぶわけです。これだけ世の中の価値観が多様化してきていますので、いろいろな学校があり選択することができるというのは非常に大事なことです。そのためにも、私学は独自性を守っていかなければなりません。

いま懸念されている問題の一つに、道徳教育があります。道徳は心の問題であり、私学の中には宗教教育を建学の精神に掲げている学校もありますから、教科として枠にはめ、採点することには馴染みません。こうした問題に対し、私たち初等学校協会がさまざまな角度から提言を行っていくことも重要な使命だと考えています。

——6-3-3-4制による学制の問題など、教育の根幹

に関わる部分でも、私立小学校が先導する部分は非常に大きいですね。

**矢崎** 初等学校協会では、教員や教育の質向上のために、教科ごとの部会はもちろん、メディア教育や劇研究部など、さまざまな研修会を開催しています。学校により歴史的背景が異なり、建学の精神もさまざまですから、とても勉強になり、こうした機会を通じて相互に情報共有を行い、新しい時代にふさわしい教育の創造を行っています。6-3-3制についても異なった実験を先行している学校もあります。

——大学で始まった「グローバル教育」の波は中高にも及びつつあります。こうした動きは小学校にどのような影響を及ぼすでしょうか。

**矢崎** 昔から私学ではどの学校でも外国語教育に取り組んでいます。ただそれを、どの学年から始めるかでは意見が分かれるでしょう。有志によるサマースクールやウィンタースクール、海外でのホームステイを実施している学校もあります。単に語学力を早くから身につけるというのではなく、教育としての異文化体験を重視しているのですね。

——私学ならではの強みとして、保護者と教職員の一体感も指摘されます。

**矢崎** 小学校は子どもではなく、親が選びます。そ



の過程で、保護者の方が私学の建学精神や校風、教育方針に賛同していただけたら、そこで強い協力体制が生まれます。子どもも含めた、この三位一体の絆は本当に強いですね。

私学ではどこでもそうですが、保護者同士が仲良くなり、子どもが卒業しても懇親会を続けている、というくらい強い繋がりが生まれている。そうした絆がやがて世代を超え、自分の子どもや孫も同じ学校にやりたい、という思いが生まれます。子どもも親も、先生も、みんな母校に誇りを感じている。これはまさに私学の強みです。

——「改革には終わりはない」とおっしゃっていますが、私立初等学校協会として果たすべき役割は何でしょうか。

**矢崎** 限られた授業時数の中で、どのような授業を効果的に行っていくか。どの学校でも工夫を凝らして、独自のカリキュラムづくりに取り組んでいます。

一方で、危機管理の問題も近年、非常に大きくなっています。構内外のセキュリティーの問題ですね。これは私学だけではなく、地域では公立小学校も交えて情報交換を行っています。

また、私立学校協会としても鉄道会社に協力を要請したりしていますし、一昨年の東日本大震災の際には、駅にいた他の私立学校の児童を本学で預かったりもしました。お互いに、学校間で子どもたちの安全を守りましょうと対策を講じています。

——子どもたちのいじめの問題や心のケアなども大きな課題です。

**矢崎** 各学校では先生が子どもたちの中に直接入って、一緒に遊んだりすることで見極めるように務め、何か問題があった場合には職員会議で報告し、全教員で協力体制を取るなどさまざまな対策を講じています。何より大切なのは、「いのちのカリキュラム」といった、生命の尊厳に関する学習をきちんと行うことだと思います。例えば人間のからだの仕組みで言うと、小腸の細胞は1秒間に170万個も入れ替わっているそうです。栄養を吸収する大事な器官だから、神様がそう作ったのかもしれない。そういうふうには作られた身体だと知れば、簡単に自殺などし

ないだろうし、命を大事にしようと思うでしょう。友だちも同じだから、いじめたり喧嘩したりするのはやめようと思うかもしれない。あまりにも命の尊厳が失われている時代だからこそ、教育の力で何とかしなければならぬと強く思います。

——私学を守るという意味から言えば、児童一人当たりの補助金が、私学は公立に対して低い。保護者の負担を考えると、これは大きな問題です。

**矢崎** 経済面の問題に加えて、3.11の震災もあり、子どもをあまり遠くへ通わせたくないから近くの公立へ入れよう、という風潮がありました。私立は中学からでいいや、と。そうした話を聞くと、小学校の6年間という貴重な時間をどう考えているのだろうと思います。私立小学校はその教育に命をかけて取り組んでいますから、自信がある。それは声を大にして言いたいですね。

——日本の初等教育の発展を振り返ると、私立学校が果たしてきた役割は非常に大きい。

**矢崎** 一例を挙げると、大正期にまだマラソンという競技が根づいていなかった時代に授業で採り入れたり、写生や読書の時間を作ったりと、さまざまな先駆的な取り組みを私学が先導して行ってきました。

それは今日でも同じで、大事なところは保護者の方々がしっかり見極めることだと思います。パンフレットだけでは材料不足で、そこに書かれていることが実際に行なわれているかどうかは、その学校に出かけて行って確かめてください。そして、そこでの教育が自分の子どもに合っているかどうかを見ていただきたいですね。

——先導的な教育は私学が発祥です。その教育の本質を知るとは、私立、公立を問わず、子どもたちの未来のために学ぶべきですね。

**矢崎** 江戸時代の寺子屋も、松下山塾なども、日本を作っていく上で私塾が果たしてきた役割はとても大きかった。ですから、どんな建学の精神のもとで、どのような教育を行っているのか、ぜひ私たち自身の問題として知っていただきたいし、応援していただきたいですね。